

都市再生整備計画

かたかみ
片上地区(第2回変更)

おかやま びぜんし
岡山県 備前市

令和7年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	☐
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☐

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	岡山県	市町村名	びぜん 備前市	地区名	かたかみ 片上地区	面積	18.0	ha
計画期間	令和	6	年度	～	令和	10	年度	
					交付期間	令和	6	年度
						～	令和	10
							年度	

目標
大目標：公共施設の再編集中を行い、来訪者の片上地区内への回遊性を高め、都市拠点としての魅力を高める 目標1：公共施設の再編集中による新たな交流拠点施設の整備 目標2：地区内の歩行者回遊空間の創出
目標設定の根拠
都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 本市は、岡山県の東南端の兵庫県との県境に位置し、南部は瀬戸内海に面し、北部は丘陵地が広がっており、面積258.14km ² の市域を有している。市内の産業は、古くは備前焼と漁業であり、現在は耐火煉瓦をはじめとする製造業が盛んで県内第4位の出荷額を誇っている。また、JR赤穂線、JR山陽本線の2つの鉄道路線や国道2号、山陽自動車道などの道路網、内航船を中心とした海運業など交通と運輸の結節点となっている。 本市は、耐火煉瓦産業が盛況であった1975年頃までは、人口5万人ほどであったが、現在は人口3.2万人に減少し、少子高齢化が進行している。 片上地区についても、1991年の片上鉄道の廃線を契機に地区の空洞化や商店街の衰退が始まり、2002年の商業施設アルファビゼンの閉鎖によりその流れが一層加速した。 こうした状況を打開するため、令和4年2月に「備前市都市計画マスタープラン」を改定し、「機能的で快適な人に優しい都市づくり」、「連携と交流による賑わいのある都市づくり」、「自然と歴史が調和した潤いのある都市づくり」をまちづくりの基本理念として掲げた。 さらに、同年4月に「備前市立地適正化計画」を策定し、「都市拠点」「地域拠点」と位置づけ、JR西片上駅を中心としたエリア約24haを都市機能誘導区域に、またその周辺に居住誘導区域を設定した。この都市機能誘導区域は、「都市機能の機能・充実を図るべきエリア」として設定するもので、同エリアには、市民センター、旧アルファビゼンをはじめ、岡山県立備前緑陽高等学校や市役所本庁舎、金融機関や商業施設が集積している。 これらの片上地区の整備と併せ、もう一つの都市拠点である伊部地区との中間に位置する浦伊部地区では土地区画整理事業廃止後の土地の有効利活用の促進に取り組んでおり、片上・浦伊部・伊部の3地区に備前市の都市機能を集約し、都市拠点としての魅力向上につなげる。 今回策定する都市再生整備計画においては、下記2つの目標の達成に取り組む 【目標1】都市機能誘導区域内のJR西片上駅を中心とした中心市街地エリアにおいて、海沿いの市有地4,000㎡及び周辺民有地を活用して、周辺区域に立地する老朽化の進んだサイクリングターミナルの移転や多目的に活用できるホールを配置し、図書館を核とした新たな複合施設(以下新施設という)として整備する。また、新施設整備予定地から徒歩5分圏内には、市役所及び旧アルファビゼン(減築し、キッズスペースや公民館、歴史民俗資料館や社会福祉協議会などが入る複合施設として整備する計画が進んでいる。)があり、これらの交流拠点施設がそれぞれの特色を活かし、相乗効果を発揮し、当該エリアへの人の流れを呼び込む。 【目標2】地区内の道路、公園、駐車場、カラー舗装・情報板を整備し、新施設から公共施設・JR西片上駅・近傍大型商業施設・商店街を回遊できる歩行者空間を創出することにより、エリア訪問人口を増やし、エリア滞在時間の延伸を図る。 本市の公共施設等については、平成29年に策定した「備前市公共施設等総合管理計画」に基づき公共施設の総量の適正化や長寿命化を目指しており、令和2年には、耐震性に課題のあった市役所本庁舎を解体し、新築整備した。一方で、公民館・図書館・ホールを備えた市民センター(築42年)や歴史民俗資料館(築71年)は老朽化が著しく、利用者が減少しており、市民のニーズにこたえることができていない。また、現在のサイクリングターミナルは中心地から離れた居住誘導区域外にあり、誘客面において不利な立地である。これらの理由により、周辺地の公共施設を整理し、都市機能誘導区域内の当エリアに集約を図る。 まちづくりの経緯及び現況 備前市では、「第3次備前市総合計画」(令和3年度)において、「魅力あふれる”まち”」を本市の目指すまちの将来像の一つに掲げ、令和4年(2022年)に策定された「備前市都市計画マスタープラン」では、「機能的で快適な人に優しいまちづくり」と「連携と交流によるにぎわいあるまちづくり」と「自然と歴史が調和した潤いのあるまちづくり」を基本目標の3本柱としている。 【都市機能の現況】 片上地区(以下、「当地区」という。)は、「市民センター」「片上商店街」「大型商業施設」「文教施設」「行政機関」「金融機関」を構える市の中核となる地区であり、中心部への玄関口であるJR西片上駅とバス路線が集積するターミナル機能を持つ。 しかし、JR西片上駅の駅舎待合スペースや、バスの待合所(プレハブ小屋)は狭小なものであり、利用者が乗り換えなどの待ち時間を過ごすには不便な施設となっており、交通の結節点としての機能を十分に果たすことができていない。 また、アルファビゼンは閉鎖後、民間利用の公募や公的施設としての活用など跡地利用を模索し続けたが、継続的な利活用に至らず、市の中心地に巨大な未利用施設がある状態で約20年が経過した。平成31年から開始したアルファビゼン跡地活用検討では、複数案の中から、現施設を減築し、公民館、歴史民俗資料館、社会福祉協議会、防災拠点、キッズスペースなどを備える複合施設を整備することに決定した(R7.3竣工予定)。 現在の図書館は市民センターの中にあり、320㎡と非常に狭小であり、市民一人当たりの貸出冊数は県内最下位という状況が7年間続いている。よって、新図書館整備に関する市民の期待は非常に高く、令和2年3月に「備前市立図書館整備基本構想」を策定、令和4年3月に「新しい図書館を創ろう会」を結成、令和5年2月に「備前市立図書館等整備基本計画」を策定した。 【まちづくりのソフト事業の現況】 片上鉄道沿線地域活性化対策協議会(備前市・赤磐市・和気町・美咲町で構成)では、片上鉄道沿線での婚活イベントやサイクリング大会を開催している。 また、民間では、「Reborn かたかみ」が令和4年に設立、片上商店街において「片上商店街振興協同組合」が活動を行っており、備前商工会議所なども積極的なサポートに取り組んでいる。また、地域住民で構成する片上まちづくり会議なども加わり、積極的な議論が交わされ、片上地区未来ビジョン策定等の機運が高まっている。さらに、岡山県立備前緑陽高校では総合学習課程において「びぜんみらい学」に取り組んでおり、片上の復興についても継続的に研究題材としている。
課題
・合理的でメリハリのある土地利用を推進するため、JR西片上駅から商店街周辺の未利用地を活用する必要がある ・分散配置となっていると同時に、老朽化し低利用となっている公共都市機能を交通拠点周辺に集約し、市街地の活性化を図る必要がある ・まちのにぎわいを取り戻すため、歩行者空間の充実を図り、歩いて楽しめるまちづくりを進める必要がある ・駅舎やバス待合施設を整備し、公共交通の利便性を向上することにより、自動車に依存しすぎないまちづくりを進める必要がある

将来ビジョン(中長期)

①第3次備前市総合計画(R3-R10)(令和3年度策定)

・公共施設や日常利便施設などの集約立地を図る

・各拠点を公共交通等で結ぶ

・コンパクトシティ・プラス・ネットワークによる持続可能な地域社会の形成

②備前市都市計画マスタープラン(2022-2030)(令和4年策定)

【機能的で快適な人に優しいまちづくり】～道路、公共交通機関、商業施設、下水道などの生活基盤がコンパクトに整備され、安全・安心で快適なまちづくり

【連携と交流によるにぎわいあるまちづくり】～産業の活性化や地域内外の連携・交流により、活力・にぎわいのあるまちづくり

【自然と歴史が調和した潤いのあるまちづくり】～歴史・文化資源、海や緑の豊かな自然、都市公園・緑地、観光・レクリエーション施設を活かした潤いのあるまちづくり

【都市拠点・地域拠点】西片上駅

【都市連携軸】国道250号

【公共交通軸】JR赤穂線

【産業・文化ゾーン】歴史・文化、商業、業務、工業などの都市機能が集積するゾーン

都市施設の整備方針④教育・文化施設「生涯学習推進に資する図書館等の整備・充実や公民館機能の充実」

③備前市立地適正化計画(2022-2027)(令和4年策定)

④備前市地域公共交通網形成計画(2020-2024)(令和2年策定)

【日常生活を支える公共交通網の形成】

【まちに活力を与える公共交通】

【持続可能な公共交通体系の構築】

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

・計画的な土地利用による都市機能の集積を図るため、公共施設のストックマネジメントとのバランスを図りながら、都市機能誘導区域外の公共施設を都市機能誘導区域内へ移転する。

・コンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現に向け、公共交通の拠点に都市機能を集約する。

・都市機能誘導区域外にあるサイクリングターミナル及び歴史民俗資料館を、JR西片上駅を中心とした都市機能誘導区域に移転する。

・都市機能誘導区域内の市有地に、市民センターから図書館を移転する。その際、地域交流センター(多目的ホールや飲食スペース)や市外からの利用が見込める観光交流センター(サイクリングターミナル)を合わせた複合施設として整備する。

・空き施設状態のアルファビゼンを減築し、市民センターから公民館を移転する。その際、歴史民俗資料館、社会福祉協議会、こども広場等を合わせた複合施設として整備する。

・JR西片上駅、新施設、アルファビゼン跡複合施設、市役所、民間商業施設等で構成されるエリアを「賑わい・交流・福祉」をテーマとした都市機能集積エリアとする。

・都市機能誘導区域内の市民センターについては、公民館、図書館の機能移転を進めながら機能移転後の施設の方向性を検討する。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

・都市機能誘導区域内に図書館、サイクリングターミナルを移転し、多目的ホール・飲食スペースを加えた、複合施設を整備する。※飲食スペースは、民間で運営することを計画している。

・新施設を市営バス路線の停留所とする。またR5より運用開始しているデマンドタクシーの制度改善(新施設への乗り入れ等)も検討する。

・各機能移転後の市民センター施設については、今後、他の施設との相乗効果が図れるよう関係部署で検討する。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
新施設来館者数	人/年	新施設(備前市立図書館、備前市地域交流センター、備前市観光交流センターの複合施設)の来館者数	公共施設の再編集集中により、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出によって来館者数が増加し、片上地区回遊の始点(拠点)的役割を担う。	35,233	R4年度	100,000	R10年度
片上地区の満足度	%	備前市在住、在勤、在学者等へアンケートを実施して片上地区の公共施設や歩道整備状況等の充実度に満足している人の割合	魅力ある滞留空間・交流拠点の創出や歩行者空間の機能性向上により片上地区の回遊性や滞在人口が増加する。	9.45	R5年度	20	R10年度
公共交通機関の利用者数	人/年	JR西片上駅の普通乗降者数(定期券乗降者は除く)	片上地区の魅力の向上とともに公共交通のアクセス整備等により利便性向上も進め、減少傾向にある公共交通機関の利用者数が増加する。	39,508	R4年度	50,000	R10年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【公共施設の再編集中による新たな交流拠点施設の整備】 ・公共施設の再編集により、図書館を核とした、魅力ある地域内外の交流拠点となる新施設の整備		【基幹事業】高次都市施設 地域交流センター 【基幹事業】高次都市施設 観光交流センター 【基幹事業】誘導施設 教育文化施設(図書館) 【関連事業】旧アルファビゼン跡地活用事業、官民連携まちなか再生推進事業
【地区内の歩行者回遊空間の創出】 ・道路改良により安全性を向上させる ・公園・広場・駐車場を整備し滞留空間を創出する ・カラー舗装、案内板設置により回遊性を向上させる		【基幹事業】道路 【基幹事業】公園 【基幹事業】地域生活基盤施設 【基幹事業】高質空間形成施設 【関連事業】旧アルファビゼン跡地活用事業、官民連携まちなか再生推進事業
【公共交通の結節点としてコンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現】 ・憩い、待合い等のための滞留空間の提供		【基幹事業】高次都市施設 地域交流センター 【基幹事業】高次都市施設 観光交流センター 【基幹事業】誘導施設 教育文化施設(図書館) 【関連事業】旧アルファビゼン跡地活用事業、官民連携まちなか再生推進事業、JR西片上駅改修工事
その他		
【その他官民協働の取り組み事例】 ・片上地区及び商店街の活性化を目的に「Reborn かたかみ」がR4に設立。備前市と協働で行う「片上魅力アッププロジェクト」が進行していて、今後はイベント実施等も予定。 ・R5官民連携まちなか再生推進事業として「片上地区未来ビジョン」を策定中。R5の事業主体は備前市であるがR6以降は徐々に主体を民間に移行しながら官民連携まちなか再生推進事業として実証実験、まちなび整備等を実施検討。		

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市構造再編集集中支援事業)

様式(1)-④-1

交付対象事業費	4,088.6	交付限度額	2,044.3	国費率	0.5
---------	---------	-------	---------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

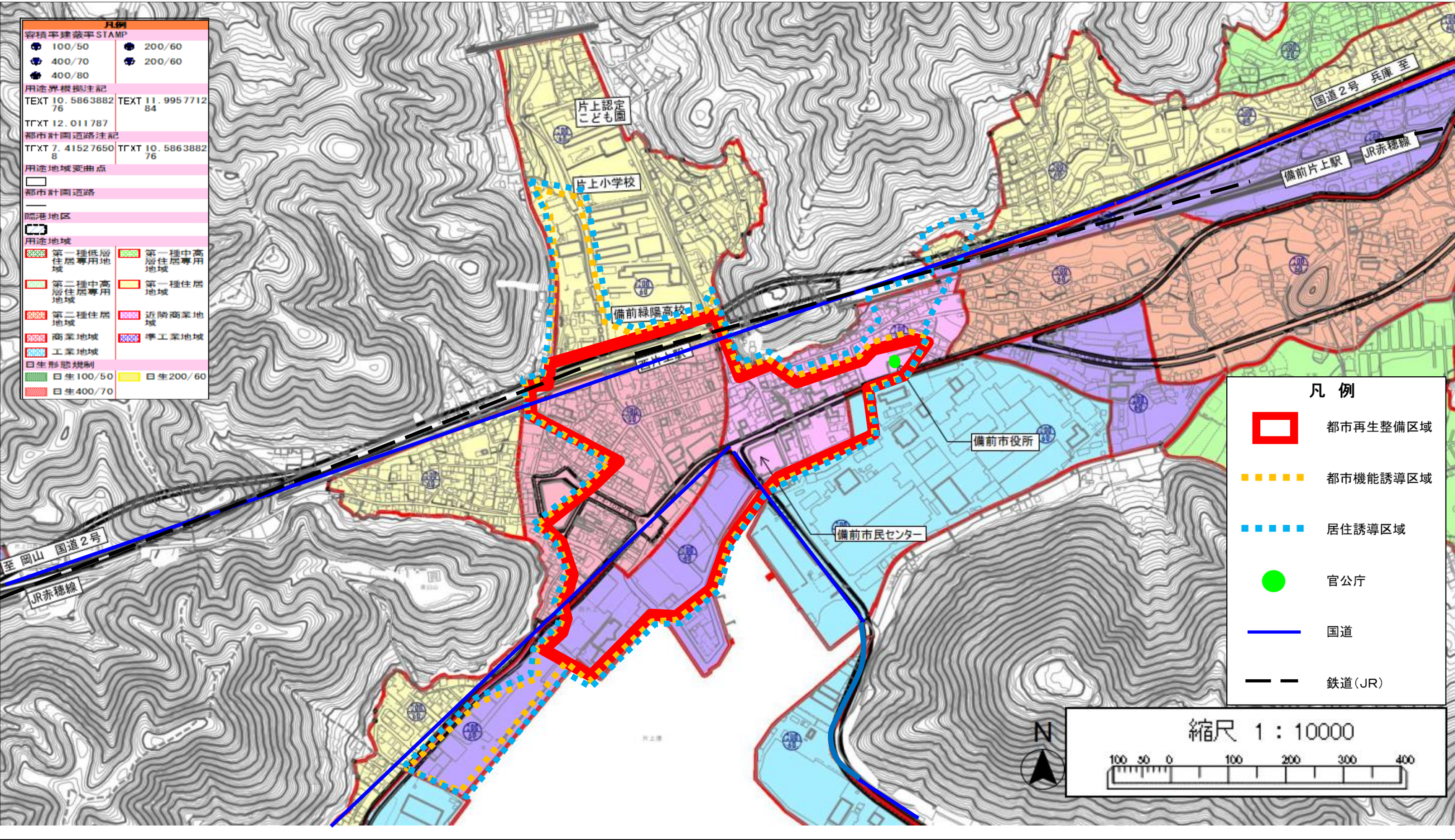
基幹事業	事業		事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費	費用便益比 B／C
	細項目						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
	道路		市道片上54号線	備前市	直	30m	R6	R7	R6	R7	30.9	30.9	30.9		30.9	
	公園		(仮称)西片上公園	備前市	直	1,800㎡	R6	R7	R6	R8	199.4	199.4	199.4		199.4	
	古都保存・緑地保全等事業															
	河川															
	下水道															
	駐車場有効利用システム															
	地域生活基盤施設		(仮称)西片上駐車場ほか	備前市	直		R6	R9	R6	R9	94.0	94.0	94.0		29.5	
	高質空間形成施設		市道片上2号線ほか	備前市	直	939m	R8	R10	R8	R10	42.6	42.6	42.6		42.6	
	高次都市施設 地域交流センター		備前市地域交流センター	備前市	直	1046.32㎡	R6	R7	R6	R7	1078.5	1078.5	1078.5		1078.5	
	観光交流センター		備前市観光交流センター	備前市	直	114㎡	R6	R7	R6	R7	117.5	117.5	117.5		117.5	
	テレワーク拠点施設															
	賑わい・交流創出施設															
	子育て世代活動支援センター															
	複合交通センター															
	誘導施設 医療施設															
	社会福祉施設															
	教育文化施設		備前市立図書館	備前市	直	2,289.97㎡	R6	R7	R6	R7	2590.2	2590.2	2590.2		2590.2	1.32
	子育て支援施設															
	元地の管理の適正化															
	基幹的誘導施設															
	既存建造物活用事業															
	土地区画整理事業															
	市街地再開発事業															
	住宅街区整備事業															
	バリアフリー環境整備事業															
	優良建築物等整備事業															
	住宅市街地総合整備事業															
	街なみ環境整備事業															
	住宅地区改良事業等															
	都心共同住宅供給事業															
	公営住宅等整備															
	都市再生住宅等整備															
	防災街区整備事業															
	復興促進事業															
	エリア価値向上整備事業															
	こどもまんなかまちづくり事業															
	合計										4153.1	4153.1	4153.1	0.0	4088.6	1.32

提案事業														
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費			交付対象 事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
地域創造 支援事業														
事業活用 調査														
まちづくり活 動推進事業														
合計										0	0	0	0	0…B

居住誘導促進事業													
事業	事業箇所名	事業主体	直／間		(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費
					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
居住誘導促進事業													
合計									0	0	0	0	0
												合計(A+B+C)	4,088.6

[illegible][illegible]

片上地区(岡山県備前市)	面積	18.0	ha	区域	備前市西片上の一部、東片上の一部
--------------	----	------	----	----	------------------



目 標	大目標：公共施設の再編集中を行い、来訪者の片上地区内への回遊性を高め、都市拠点としての魅力を高める 目標1：公共施設の再編集中による新たな交流拠点施設の整備 目標2：地区内の歩行者回遊空間の創出	代表的な指標	新施設来館者数 (人/年)	35,233	(R4年度) →	100,000	(R10年度)
			片上地区の満足度 (%)	9.45	(R5年度) →	20	(R10年度)
			公共交通機関の利用者数 (人/年)	39,508	(R4年度) →	50,000	(R10年度)

